

国際関係論専攻 2017 年度秋学期
調査・研究結果報告書

B1766276

国際関係論専攻博士前期課程 1 年

平塚啓太

【研究テーマ変更の経緯と現在】

前回フィールドワーク時に設定したテーマ「日本への韓国人女性ライフスタイル移住者の実態」は、調査を進めていく過程で以下二点の理由により研究テーマとして扱わないことを決定した。まず一点目が、自身の研究関心と研究対象とのズレが明らかになってきたため、二点目が、研究テーマとしてライフスタイル移住を中心概念として用いた場合、研究対象の分類、定義付けが困難であり修士課程の二年間では実行困難な膨大な人数にインタビューを実施しなければならない可能性があるためである。一点目に関しては、韓国からの移住現象を理解する上で必要な韓国の歴史や文化、社会制度について調査を行う中で、個人的な接触背景がない韓国という国に対して研究対象としての興味を抱き続けることが困難になった。二点目に関しては、詳しくは後述するが、ライフスタイル移住をテーマに研究を行う研究者の方と意見交換をさせていただく中で、この概念が持つ曖昧性ゆえにテーマに合致する研究対象を見つけ出すまでに膨大な手間と時間を要することが明らかになってきたということがある。

その上で現在は、JET プログラム参加者の人生選択を仮テーマに設定し調査をしており、今回も該当者にインタビュー調査を実施した。ライフスタイル移住の概念はテーマに含めていないが、研究対象は部分的にライフスタイル移住者としての性質を有していると考えている。これは変わらず「人生戦略としての移住」に関心を持ちつつも、既存研究とは異なるアプローチが可能であり、明確に定義できる研究対象をテーマに据えることで一定の研究成果が得られると考えた。また、研究対象となる人々と個人的な接点があり、関心を抱き続けられる可能性が高いことも本テーマを設定するに至った理由の一つである。

【調査概要】

①第 90 回日本社会学大会観覧参加

目的：ライフスタイル移住の概念を研究の中心テーマとして扱う場合の研究の進め方を明らかにする

場所：東京大学本郷キャンパス

日程：11月4日(土)

内容：武蔵大学・中西祐子教授による発表聴講、質疑応答

武蔵大学社会学部において教育社会学、ジェンダー社会学を専門分野としている中西祐子教授の発表を聴講した。発表テーマは「「ライフスタイル移住」に関するジェンダー論的考察～戦後アメリカに移住した日本人女性たちへのライフヒストリーインタビューをもとに～」である。中西教授の研究は 2011 年から 2016 年の 5 年を要して実施した戦後移住日本人女性 28 名のライフヒストリーを聞き取ったものである。聴講後、中西教授に質問をさせて頂く機会を得たが、元々はライフスタイル移住という枠組みではなく日本人女性の移住という枠組

みで研究を進めており、その中でインタビュー対象者から「日本社会での生きづらさ」や「移住先に感じる魅力」といった共通の要素が抽出できたためライフスタイル移住という枠組みで捉え直したということであった。つまり、ライフスタイル移住という切り口で最初から研究を進めていたわけではなく、そういった要素を有した対象に幸運にもたどり着いた結果であると考えられる。「ライフスタイル移住者」という側面を見出すまでのインタビューでも5年間という年月を要しており、ライフスタイル移住を中心テーマとして修士課程で研究を完遂することは困難であると考えた。

②インタビュー調査

目的: JET プログラム参加者(過去参加者も含む)が過去～未来の人生において JET プログラムへの参加をどのように位置づけているかを明らかにする

場所: 上智大学/調査者自宅(Skype)

日程: 2018年3月2日(金)13:00-14:30、3月8日(木)20:00-22:00

内容: 過去～未来の人生、JET プログラムの仕組み、業務内容についての聞き取り

インタビュー概要は別紙に記述するが、JET プログラムの大まかな概要については以下の通りである。

JET プログラムは、「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称で、地方自治体が総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下に実施している。ALT(外国人指導助手: Assistant Language Teacher)の他に CIR(国際交流員: Coordinator for International Relations)と SEA(スポーツ国際交流員: Sports Exchange Advisor)の受け入れを行っている。プログラムの目的は、主に海外の青年を招致し、地方自治体、教育委員会及び全国の小・中学校や高等学校で国際交流の業務と外国語教育に携わることにより、地域レベルでの草の根の国際化を推進することである。プログラム開始の1987年から現在に至るまで、招致国は4カ国から44カ国に、参加者も848人から5,163人へと増加。JET プログラム開始以来、累計67ヶ国から6万6,000人以上が参加している。

【調査結果まとめと今後の展望】

今回の調査を通じ、ライフスタイル移住から変更したテーマ(JET プログラム)で研究を展開していくことができる見込みができた。インタビューについて、本報告書に記載したものは二名分であるが、その二名から他の JET プログラム参加者を紹介して頂くことになっており、JET プログラムの過去参加者によるコミュニティー「JETTA Tokyo」にも現在接触を試みている。また、研究内容の面では、JET プログラムでの ALT としての業務自体ではなく業務外での経験が進路を決定付けたり、業務を通じて感じた将来への不安から進路を模索し

たりする様相がインタビューを通じて確認できた。今後、引き続きインタビューを実施していき、JETプログラム参加者のキャリア、人生の展望について明らかにしていきたいと考えている。

【経費】

①第90回日本社会学大会参加費：6,000円

②Apowersoft社ストリーミング音声記録ソフト個人ライセンス取得代金(Skypeでのインタビュー内容録音のため)：4,690円

③Amazon(インタビュー謝礼として)：1,000円

合計：11,690円